

東京計器株式会社

2022年3月期 第1四半期 決算補足説明資料

2021年8月11日（水）

本説明資料に記載された将来に係る事項は公表時点で入手可能な情報を踏まえて弊社経営陣が想定したものです。従って、今後の事業環境等により差異が生じることもありますので、ご承知置きください。

資料の内容

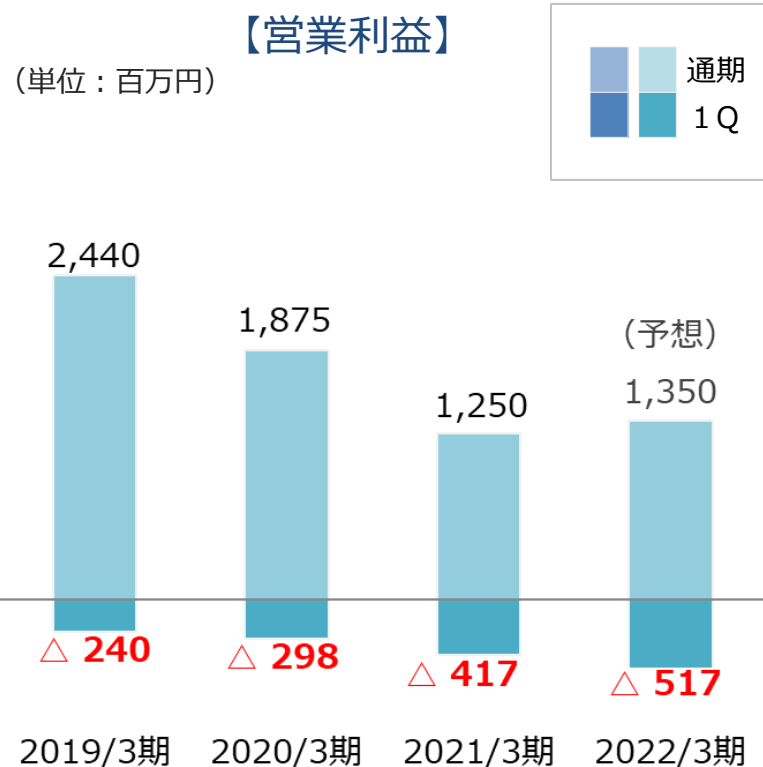
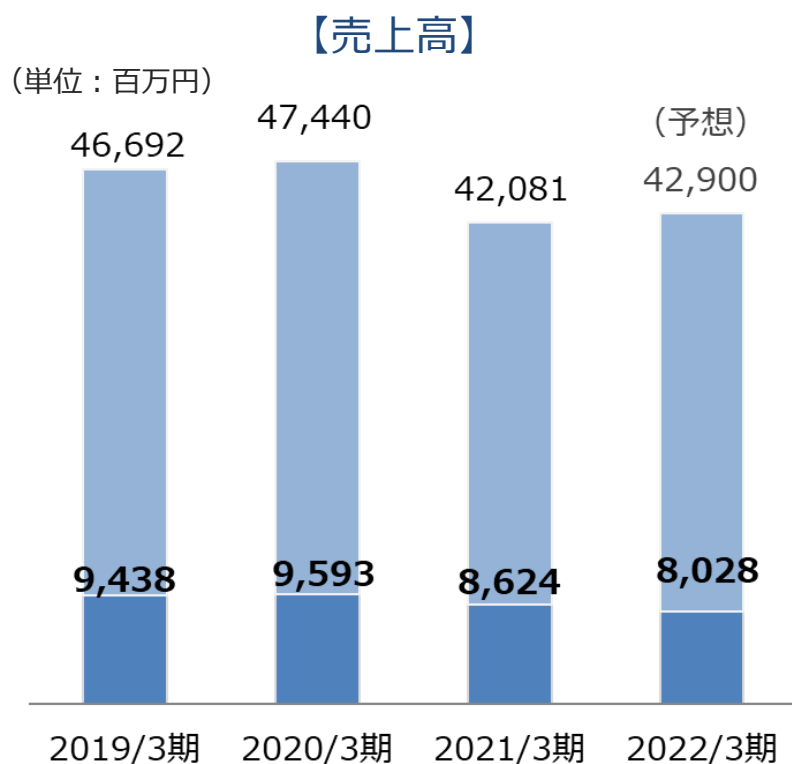
1. 2022年3月期第1四半期 決算概要
 2. トピックス
- 〈ご参考資料〉

2022年3月期 第1四半期 決算サマリー

- ◆ 当第1四半期は前年同期比減収・減益ながら当社グループ全体の受注高、受注残高とも増加
 - 主要因は期初より想定した防衛・通信機器事業が、官需案件の当期までの端境期による減収・減益
 - 前年度コロナ禍の影響を大きく受けた油空圧機器事業は、前期後半からの回復基調が継続
 - 流体機器事業は、官需市場、民需市場ともに堅調に推移

- ◆ 通期業績予想は、2021年5月14日に開示した予想に変更なし。当社の収益構造が下期偏重であること、概ね期初予想通り推移していることから、通期予想は前期比増収・増益の見込み

第1四半期 連結損益の推移

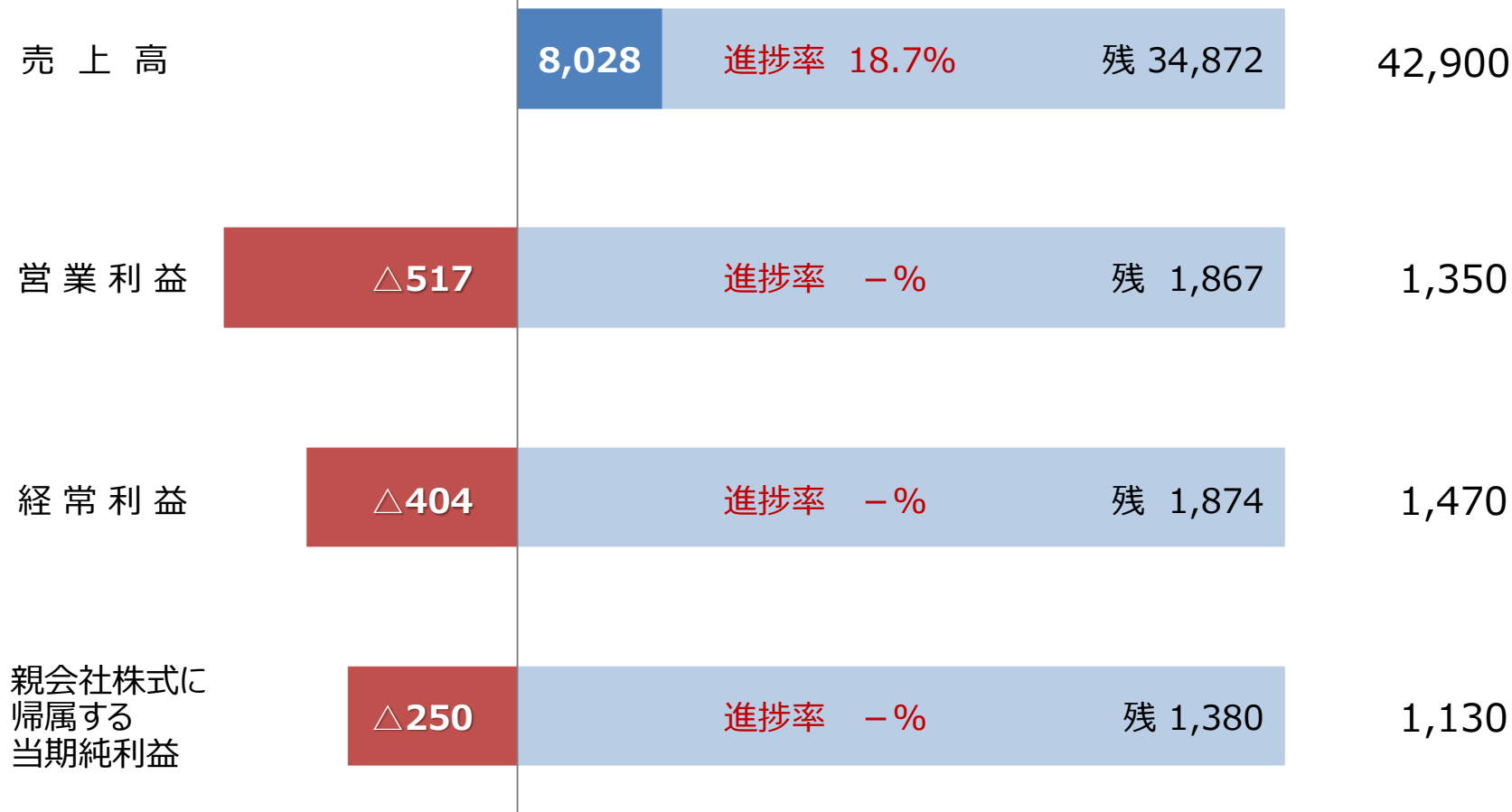


(単位：百万円)	2019年3月期 第1四半期	2020年3月期 第1四半期	2021年3月期 第1四半期	2022年3月期 第1四半期	前年同期 増減額	前年同期 増減率
連結売上高	9,438	9,593	8,624	8,028	△597	△6.9%
連結営業利益	△240	△298	△417	△517	△100	—
連結経常利益	△155	△253	△338	△404	△66	—
連結当期純利益	△89	△157	△216	△250	△33	—

第1四半期の進捗状況

(単位：百万円)

通期業績予想



◆ 当社グループは売上高、損益とも第3四半期以降に偏重しているため、当第1四半期の業績は例年どおり
(ページ番号13,14参照)

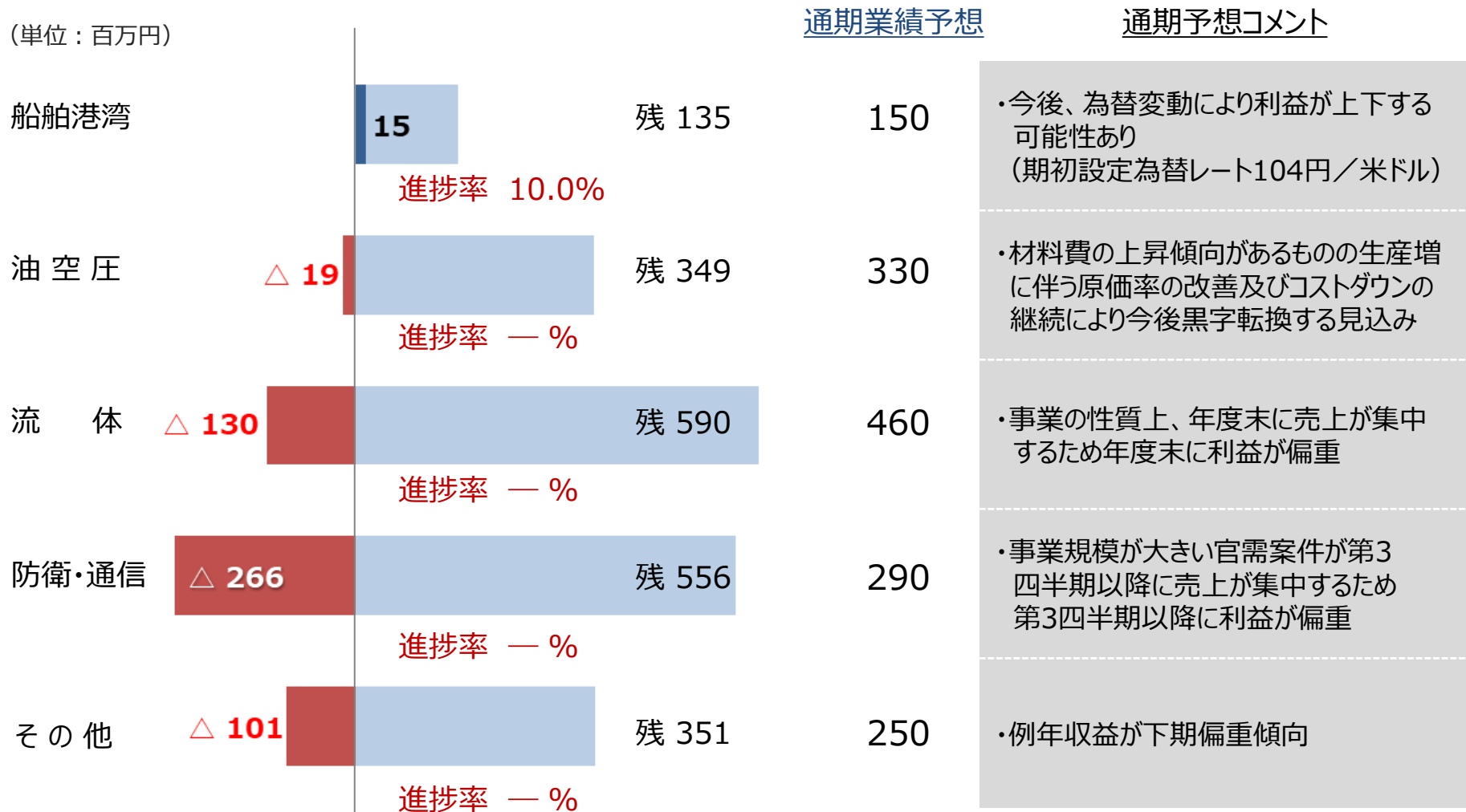
セグメント別 売上高進捗状況

(単位：百万円)

			通期業績予想	通期予想コメント
船舶港湾	2,019 進捗率 22.7%	残 6,881	8,900	・海外の新造船向け、船舶関連機器の保守サービスが順調に推移する見込み
油空圧	2,835 進捗率 23.4%	残 9,265	12,100	・すべての市場が順調に推移する見込み
流体	597 進捗率 13.9%	残 3,703	4,300	・官需、消火設備市場は堅調に推移する見込み
防衛・通信	2,126 進捗率 14.7%	残 12,374	14,500	・官需案件と民需案件で売上の増減による相殺があるものの全体として期初予想通り推移する見込み
その他	450 進捗率 14.1%	残 2,750	3,200	・鉄道機器事業で機器販売での変更があるものの期初予想通り推移する見込み

※数値は調整前売上高

セグメント別 営業利益進捗状況



※数値は調整前営業利益

受注・受注残の状況

(単位:百万円)	2022年3月期1Q 受注高		2022年3月期1Q末 受注残高		
	金額	前年同期比増減	金額	前期末比増減	前年同期末比増減
船舶港湾	2,489	+8.9%	2,747	+20.6%	+0.6%
油空圧	3,198	+41.1%	3,022	+13.6%	+26.0%
流体	1,014	+48.8%	1,432	+41.1%	+27.4%
防衛・通信	1,737	+2.3%	15,182	△2.5%	+9.3%
報告セグメント合計	8,438	+21.7%	22,382	+4.0%	+11.1%
その他	960	△25.6%	1,421	+57.5%	+5.9%
合計	9,398	+14.3%	23,804	+6.2%	+10.8%

- ◆ 油空圧機器事業は、回復基調によりすべての市場で需要が増加し、流体機器事業は、官需、海外、消火設備市場で需要が増加したことからいずれの事業も受注、受注残ともに大きく増加
- ◆ その他は鉄道機器事業で大型物件であるレール探傷車の需要がなかったことから受注が減少

1. 2022年3月期第1四半期 決算概要

連結貸借対照表（主要な勘定科目のみ）

（資産の部）

（負債・純資産の部）

（単位：百万円）	2021年 3月期	2022年3月期 第1四半期	増減額	（単位：百万円）	2021年 3月期	2022年3月期 第1四半期	増減額
流動資産	40,950	39,923	△1,027	流動負債	17,722	17,362	△361
現金預金	11,620	13,070	1,450	支払手形・買掛金	5,093	5,419	326
受取手形・売掛金	12,568	9,119	△3,449	短期借入金	8,516	8,398	△118
電子記録債権	3,816	2,975	△840	賞与引当金	1,097	544	△553
棚卸資産	12,673	14,168	1,495	固定負債	3,884	3,794	△90
未収入金	32	250	218	長期借入金	2,424	2,335	△89
その他	245	345	99	退職給付に係る負債	531	554	22
固定資産	12,596	12,582	△15	負債合計	21,607	21,156	△451
有形固定資産	6,970	6,773	△197	株主資本	29,619	28,953	△666
無形固定資産	33	44	11	利益剰余金	23,076	22,410	△666
投資有価証券	3,606	3,786	180	その他の包括利益累計額	1,835	1,942	106
退職給付に係る資産	1,068	1,096	28	純資産合計	31,939	31,349	△590
資産合計	53,546	52,504	△1,042	負債純資産合計	53,546	52,504	△1,042

- ◆ 防衛・通信機器事業で過去に納入した売掛金・受取手形等の現金化が進み、現金預金は+1,450百万円増加
- ◆ 棚卸資産が主に防衛・通信機器事業の年度末に向けた工事の進捗により+1,495百万円増加（うち仕掛品1,166百万円）しているものの、前年同期比では△1,365百万円と大幅に減少
- ◆ 利益剰余金は配当金（410百万円）、親会社株主に帰属する当期純損失（250百万円）により減少

トピックス 1

ブルーインパルスの安全な飛行を支える東京計器の「対気諸元計算装置」

華麗な編隊飛行で人気の、航空自衛隊のアクロバット・チーム、通称「ブルーインパルス」
この機体には当社の対気諸元計算装置が搭載されています

対気諸元計算装置（ADC）とは

対気諸元計算装置（ADC＝エア・データ・コンピュータ）は、航空機の高度、速度などを計算する装置です。航空機の高度や速度は、飛行中に受ける空気の圧力などから計算しますが、これらは高度、飛行速度、温度などの条件によって誤差が生じます。ADCは、機外に取り付けられた各種センサーからのデータを解析し、正確な高度や速度を算出します。

ブルーインパルス機には低空でのアクロバット飛行を安全に行うために、専用のADCが搭載されています。



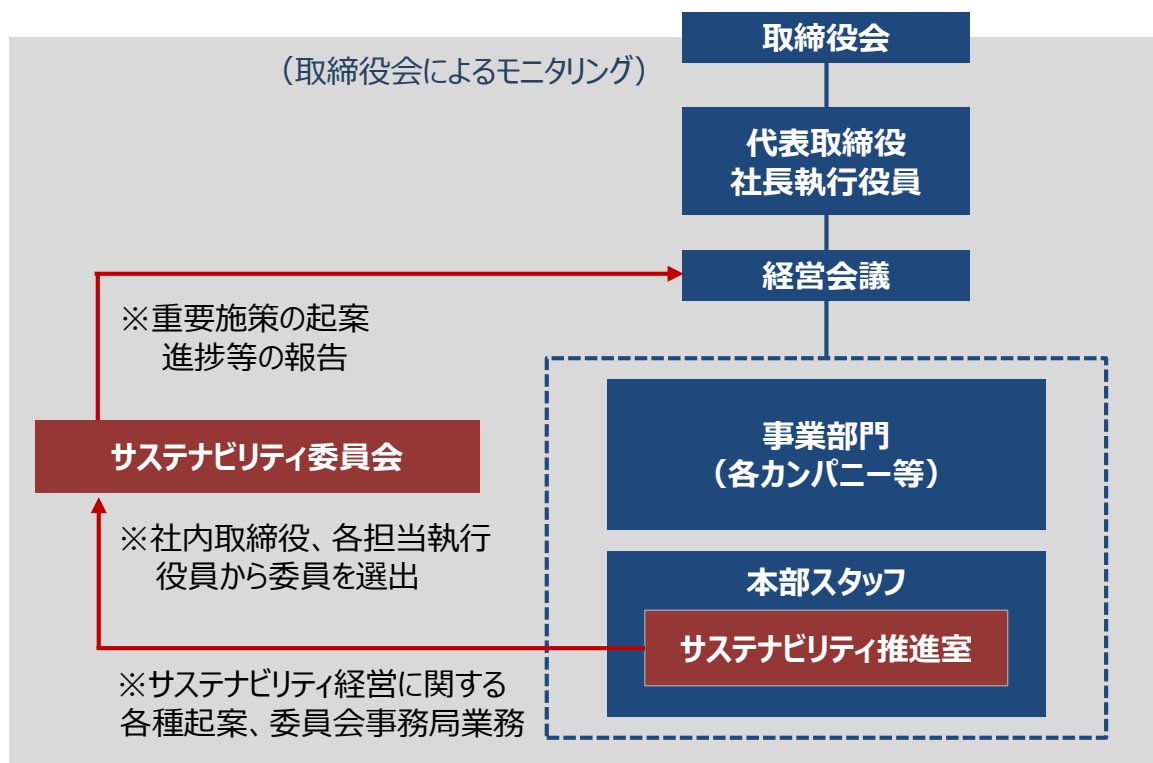
ブルーインパルス 編隊飛行

当社が開発・製造した各種ADCは、ブルーインパルス機の基となる純国産の中等練習機T-4のほか、航空自衛隊の他の航空機に搭載され、飛行安全に貢献しています。

トピックス 2

「サステナビリティ委員会」及び「サステナビリティ推進室」を設置

当社グループは環境・社会・経済の持続可能性への配慮により、事業の持続可能性向上を図る“サステナビリティ経営”を推進するために、2021年6月にグループを横断する組織としての「サステナビリティ委員会」及び「サステナビリティ推進室」を設置しました



サステナビリティ委員会

社長執行役員を委員長として、サステナビリティ推進室が起案するサステナビリティ経営に係る方針や施策等を審議、共有し、決定事項を遅滞なくグループ全体で実行できるような会議体として機能

サステナビリティ推進室

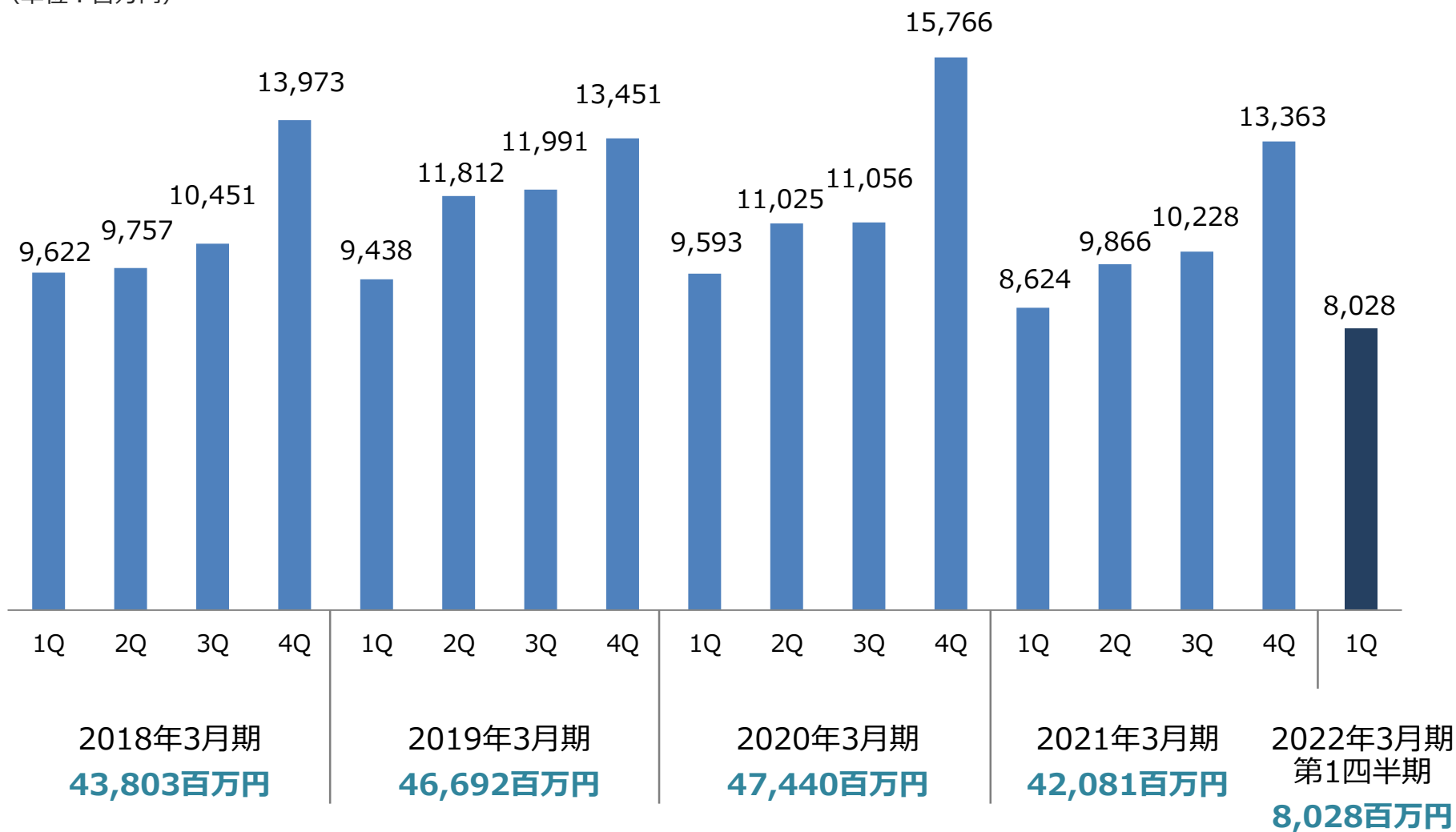
本部スタッフ（コーポレート・スタッフ）として、サステナビリティ経営に係る諸施策を当社グループの中心となって企画、推進

コーポレートガバナンス・コード（補充原則3-1③）では環境（E）に関する情報だけでなく、人的資本への投資等の社会（S）に関する情報の開示も求められています。今後、TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）等の枠組みへの対応をはじめとして、ESGを重視したサステナビリティ経営を実践することにより、持続的な「経済的価値」と「社会的価値」の創造による「企業価値」のさらなる向上を目指します。

ご参考資料

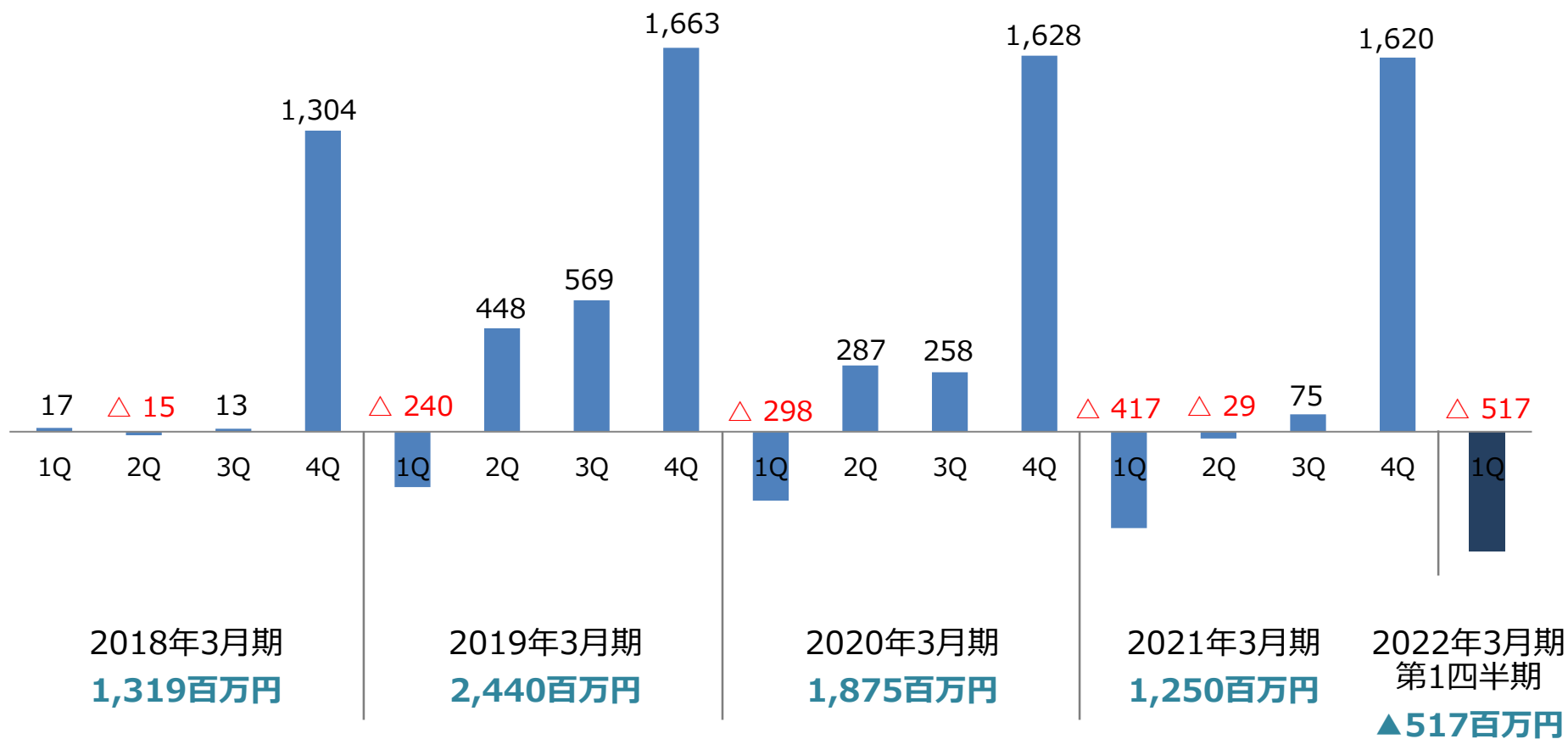
四半期 連結売上高推移

(単位：百万円)



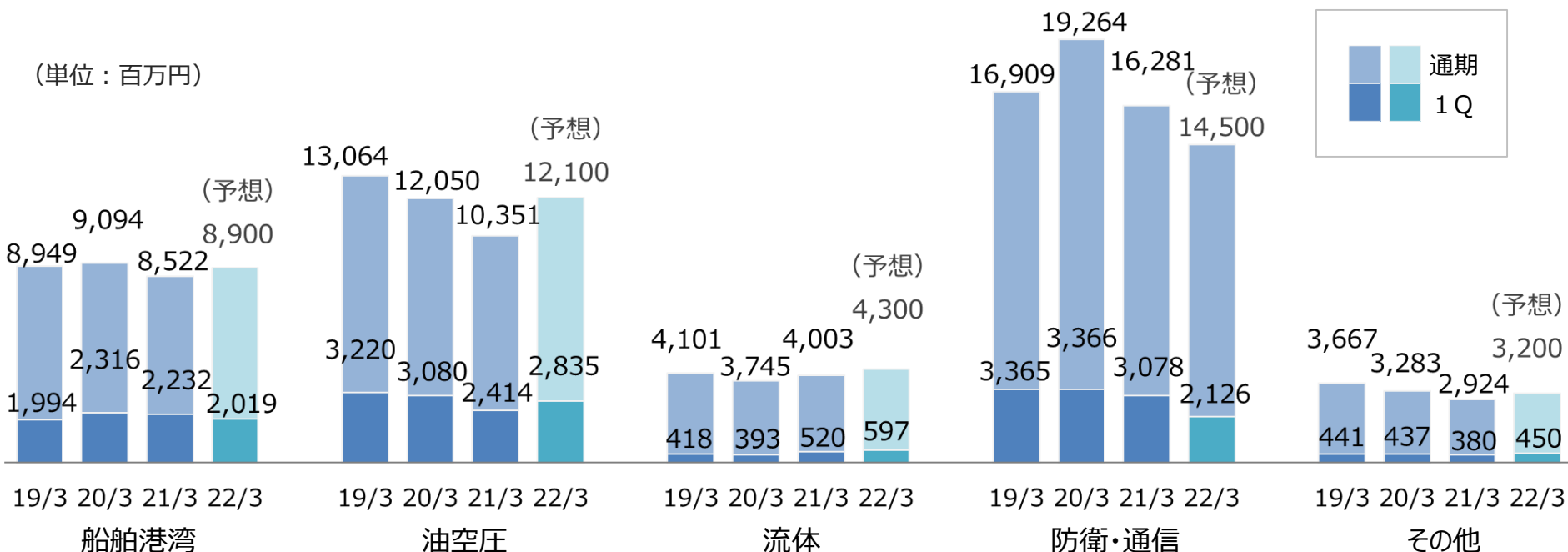
四半期 連結営業利益推移

(単位：百万円)



セグメント別 第1四半期売上高推移

(単位：百万円)

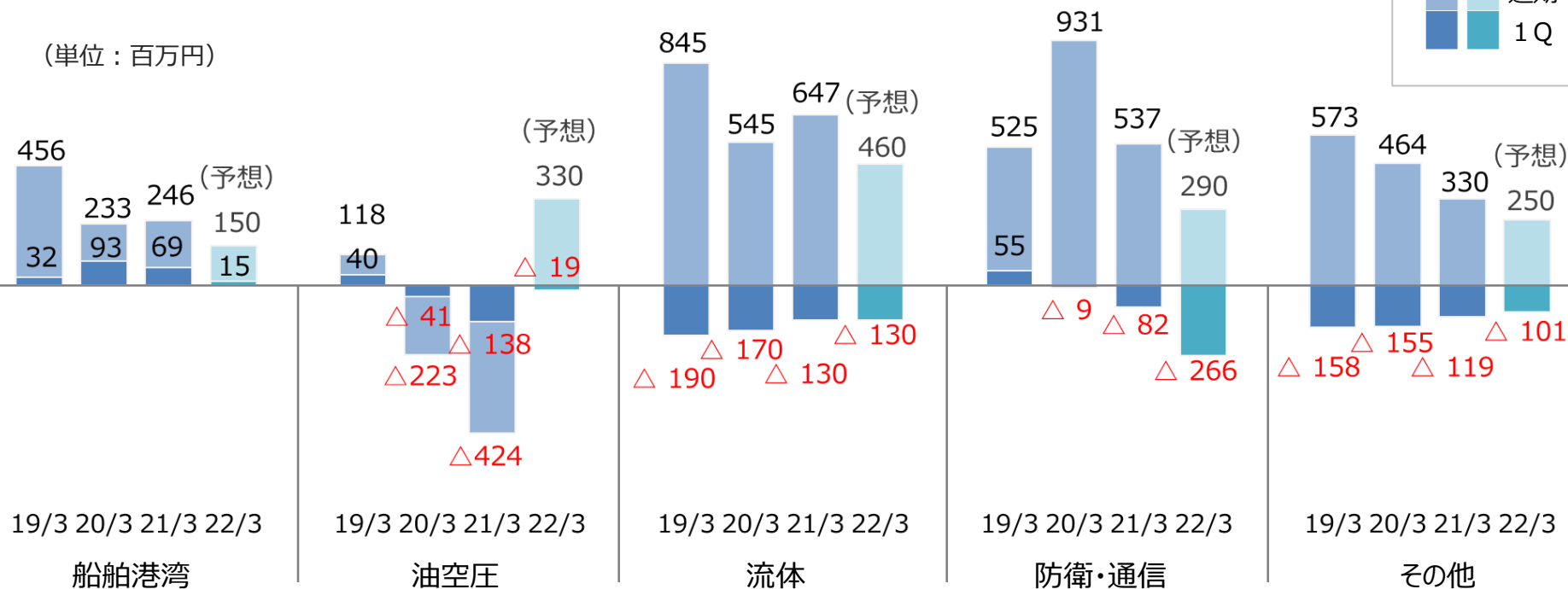


(単位：百万円)	2019年3月期 第1四半期	2020年3月期 第1四半期	2021年3月期 第1四半期	2022年3月期 第1四半期	前年同期比 (額)	前年同期比 (率)
船舶港湾	1,994	2,316	2,232	2,019	△212	△9.5%
油空圧	3,220	3,080	2,414	2,835	421	17.4%
流体	418	393	520	597	77	14.8%
防衛・通信	3,365	3,366	3,078	2,126	△952	△30.9%
その他	441	437	380	450	70	18.5%

※数値は調整前売上高

セグメント別 第1四半期営業利益推移

(単位：百万円)



(単位：百万円)	2019年3月期 第1四半期	2020年3月期 第1四半期	2021年3月期 第1四半期	2022年3月期 第1四半期	前年同期比 (額)	前年同期比 (率)
船舶港湾	32	93	69	15	△54	△78.7%
油空圧	40	△41	△138	△19	119	—
流体	△190	△170	△130	△130	0	—
防衛・通信	55	△9	△82	△266	△184	—
その他	△158	△155	△119	△101	18	—

※数値は調整前営業利益

TOKYO
KEIKI